

授業概要

～読める韓国語入門～

言葉は文化の一部であり、他者の文化を理解するための入り口でもある。そのため、自他理解の出発点とも言える外国語の必要性は益々高まる一方である。その中でも韓国語は、日本語と語順が似ている点で学びやすく短期間でも文字が読めるとても魅力的な言語である。

韓国語Ⅰでは、韓国語・韓国文化学習を通じて国際異文化理解を深めることを主たる目的とし、基礎的なコミュニケーションに必要な読み書きはもちろん、韓国語の基礎文法を学び簡単な読解と日常会話ができることを目指す。授業の7回目までは、発音の練習と読み書き、単純な会話を中心に、正確な発音を身につけてもらい、同時に聞く力、書く力、読む力をつけて行く。基本の読み書きが終わったら毎回、基礎文法事項を活用し会話演習を行う。言語活動時には、異文化体験やリスニングのために映画やドラマ、音楽など韓国文化にも触れながら学習者が緊張せず、話せるように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス及び韓国の文字（ハングル）と音韻体系
第2回	あいさつと韓国語の基本母音 *会話演習・文化体験（映像）
第3回	ハングルの子音①「平音」 *会話演習・文化体験（映像）
第4回	ハングルの子音②「平音」と「複合母音‘에(エ)’」 *会話演習・文化体験（映像）
第5回	ハングルの子音③「激音」 *会話演習・文化体験（映像）
第6回	ハングルの子音④「硬音（濃音）」 *会話演習・文化体験（映像）
第7回	ハングルの複合母音 *会話演習・文化体験（映像）
第8回	パッチムと発音の変化 *会話演習・文化体験（映像）
第9回	書き練習・音楽 *会話演習・文化体験（映像）
第10回	読み練習「親孝行の文化」
第11回	自己紹介—助詞「～は・～が」、肯定文・疑問文「～です・～ですか」*発表
第12回	あらゆる場面での挨拶表現 *会話演習
第13回	好きなもの—疑問詞「何」、挨拶の種類、「好きだ」 *会話演習
第14回	歴史・映画①『7番房の贈り物』「前半—1950年以降の韓国社会を中心に」
第15回	歴史・映画②『7番房の贈り物』「後半—冤罪が生まれるシステムを考える」・まとめ
第16回	試験（筆記）—持ち込み不可

到達目標

1. ハングルの発音表記をマスターして、正確な発音と読み書きができる。
2. 基礎的な文法事項を一つずつ学び、韓国語で簡単なコミュニケーションができる。
3. 韓国の社会情報にも触れ、異文化理解を深めることができる。

履修上の注意

1. 外国語の授業なので、発表・ペアで行う活動など授業への積極的な参加が求められる。

予習復習

1. 予習については、毎回、提示されるテキストを読んでくること。
2. 復習については、毎回、提示される課題をやってくること。

評価方法

平常点（50%—授業への参加度・小テスト・課題・発表）、試験（50%）を予定している。

テキスト

秋学期も韓国語Ⅱを受講したい学生は下記のテキストを参考にすること。半期だけの受講を望む学生には、ページ数と授業回数を考慮したところ、テキストの全てを活用することができないため、プリント教材を配布する。
*参考書—金順玉・阪堂千津子・崔栄美著『最新チャレンジ韓国語』白水社（CD付）（2,484円）